

いせはらしし べっぺん みんなぞく

## #14 伊勢原市史 別編 民俗

作者：伊勢原市史編集委員会（いせはらししへんしゅうい  
んかい）

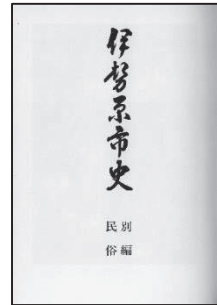
刊行：平成9年（1997）



### 解題

#### ■ 内容

『伊勢原市史 別編 民俗』が『伊勢原市史』に追加されることになったのは、昭和59年（1984）である。伊勢原市の民俗については、『伊勢原町勢誌』に触れられているほか、市教育委員会、県教育委員会、県立博物館の調査が既にあったが、本書の作成には不十分であった。そこで、昭和61年（1986）から、市域の民俗の組織調査、職人の調査を行い、『伊勢原市史民俗調査報告書 1－7』が刊行された。これらが本書の基礎資料となっている。



[K21.64/7/3-1]

本書は、Ⅰ部とⅡ部に分かれており、Ⅰ部は伊勢原市の民俗全般、Ⅱ部は「第一章 大山信仰」と「第二章 高部屋愛教育村活動」について述べられている。大山に大きく関係するのはⅡ部第一章であり、そこでは大山の自然や歴史、登拝する人々の職業や目的（雨乞い・茶湯寺参りなど）、大山道、大山講、奉納物（納め太刀など）について書かれている。

また、Ⅰ部における大山の記述としては序章三の「(2) 大山信仰の広がり」、第一章第四節の「2 阿夫利神社秋季祭と大山の町会」、第三章第三節の「大山の木地師」（大山独楽など）、第七章第三節の「夏山祭」と同章第四節の「大山阿夫利神社秋季大祭」などが挙げられる。

均整のとれた独立峰である大山は古くから人々の信仰を集め、大山講は、

## 第2章 歴史

関東甲信越と東北地方南部にまで広がった。大山は雨降山と呼ばれ、恵みの雨をもたらすと信じられたため、人々は雨乞いに使う霊水をもらいに訪れた。大山の山頂には岩石が露出した部分（磐座）があり、それを覆うように阿夫利神社本殿が建っている。現在、磐座は見ることができないが、磐座が湿気をおび始めると雨が降ると伝えられている、という。

また、大山には死者の霊魂が集まるという信仰があり、山麓の茶湯寺へ詣でると故人に似た人に会えるという言い伝えが相模川流域に広まった、とある。

### ■ 作者

本書は13名で執筆しており、Ⅱ部「第一章 大山信仰」を担当したのは小川直之である。小川直之は昭和28年（1953）、平塚市に生まれ、昭和50年（1975）國學院大学文学部を卒業した。平塚市博物館学芸員を経て、平成6年（1994）に國學院大学文学部専任講師となり、翌年には博士号を取得、本書執筆時は助教授であった。平成15年（2003）には同大学教授となり、現在は、國學院大学・同大学院教授である。主な著書に『地域民俗論の展開』、『折口信夫 死と再生、そして常世・他界』、『日本の歳時伝承』などがある。

その他に、伊勢原市史編さん委員会が7名、伊勢原市史編さん委員会と執筆者を除く伊勢原市史編集委員会が5名、執筆者を除く民俗調査員が2名、調査協力者が48名となっている。

### 参考文献

- 『伊勢原町勢誌』伊勢原町勢誌編纂委員会編 伊勢原町 1963 [K21.64/2]  
『伊勢原市史民俗調査報告書 1-7』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1988-1996 [K38.64/5/1-7]  
『地域民俗論の展開』小川直之著 岩田書店 1993 [K38/134]  
『日本の歳時伝承』小川直之著 アーツアンドクラフツ 2013 [386.1/65]